

## 「異邦人も聖霊を受ける」

2016年05月17日

使徒言行録 10 章 44 節～48 節。ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊が降った。割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊の賜物が異邦人の上にも注がれるのを見て、大いに驚いた。異邦人が異言を話し、また神を賛美しているのを、聞いたからである。そこでペトロは、「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言った。そして、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるようにと、その人たちに命じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在するようにと願った。

ペトロは百人隊長コルネリウス邸で主イエスの福音を語った。ユダヤ人と異邦人が共にいる所での宣教であった。ペトロの説教は主イエスに集中している。ガリラヤにおいて、主イエスは慰めに満ちた言葉と力ある業を行い、「神の国」の恵みのリアリティを現された。人々を喜びの中で、生きることへと立ち上がらせた。神が遣わしたキリストによる救いの御言葉、出来事であったからである。ところが、神殿当局は主イエスを、律法で作りに上げていた体制を破壊する者として、十字架にかけて殺した。神は三日目に、死者の中から主イエスを復活させ、キリスト（救い主）であることを示された。私は、これらの全てを見た証人である。初代教会のキリスト宣教（ケリュグマ）を語っている。このケリュグマは教会史を貫いて語り継がれてきた宣教である。その中で、ペトロは主イエスを「すべての人の主です」と、民族を超えた主キリストであると力説している。

ペトロが説教を続けていると、聞いている皆の上に聖霊が降った。ヤッファからペトロに同行していた、割礼を受けたユダヤ人の信者たちは異邦人の上にも聖霊が降るのを見て、非常に驚いた。聖霊が降るのが見えたとは、異邦人が異言を話し、神を賛美したからである。異言を語るとは、聖霊を受けて、他人には分からないが、恍惚状態で神を賛美することである。コリント書（一）14 章 2 節で、パウロは「異言を語る者は、人に向かってではなく、神に向かって語っています。それはだれにも分かりません。彼は霊によって神秘を語っているのです」と書いている。異言も神の恵みに対する応答の賛美である。異邦人も異言を語った。そして、神を賛美した。このことが聖霊を受けたしるしであると認められた。ナザレのイエスは主キリストであるというペトロの説教を受け入れたのである。

ペトロはこの事実を見て、「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言い、イエス・キリストの名によって洗礼を受けるように命じ、洗礼式が行われた。感動的な洗礼式であったろう。罪の赦しの洗礼を受けたコルネリウスたちは大きな喜びを与えられた。コルネリウスはなお数日滞在するように願い、ペトロたちは数日間宿泊した。

異邦人がエルサレム教会の信者たちと同じく、主イエスの福音を信じることは大きな喜びであり、教会にとって革新的な前進であった。異邦人と会話し、食事を共にし、宿泊することなど考えられないことであった。異民族間に固く立ちはだかっていた垣根が壊れた 訳である。8 章では、エチオピアの宦官がフィリポの説き明かしによって洗礼を受けた。教会は世界に向かって、確実に門戸を開いていった。人間が作った諸々の規則が破られ、愛し合って共に生きよという主イエスの福音が人々に受け入れられていったのである。